

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 4月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201769
法人名	株式会社 富士見プロジェクト
事業所名	グループホーム さくら
所在地 (電話番号)	〒424-0001 静岡市清水区梅ヶ谷645-13 Tel 054-344-2230 FAX 054-344-2229
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年3月6日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6人 常勤換算	9.02人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造り 2階建ての1階～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥57,000		その他の経費(月額)	¥9,000
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	¥90,000	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食		昼食	
	夕食		おやつ	
または1日当たり ¥1,400				

(4) 利用者の概要(平成21年3月2日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84.5 歳	最低 70 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山の上病院、小高整形外科、小高歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山間の静かな自然環境に恵まれた場所にある。庭にはベンチが置かれ、また、玄関はオープンで出入りが自由からくる開放感がある。ホーム内は明るく、清潔さが保たれており、利用者、職員の明るさと家庭的な雰囲気が感じられる。ホームの特長は、提携病院との柔軟かつ綿密な連携にあり、利用者が病状悪化などで生活に不安がある場合は、緊急的に外来受診から入院治療まで行っており、利用者及びその家族等に安心感を与えている。ホーム長は今年1月に就任したばかりであるが、ベテラン職員を中心に和をもってホーム内の運営に当たっている。今後は、地域密着型ホームとするため各施策を推進し、利用者と地域の人達との交流を積極的に行われることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者が交替して2ヶ月であることから、地域との連携において課題はあるものの、昨年の指摘事項に対しては改善の跡が見られた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価における要改善項目は一部(地域との連携)を除き改善されている。自己評価に当たっては会議の場で討議している。会議は毎月1回職員全員が参加することになっているが、十分な結果が得られる時間的余裕が認められないので、各ユニットごとでの開催等の工夫が望まれる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回実施としているが、メンバーが事業所の管理者、職員のみで構成され、地域の代表(自治会長・民生委員等)や市の職員、地域包括支援センターの職員などに参加を呼びかけておらず、運営推進会議の目的(地域と連携)に沿った取り組みとなっていない。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、気楽に相談を受け付ける体制にある。苦情、意見等があった時には、ミーティングやスタッフ会議等の場で話し合い、対応措置と再発防止に取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事には参加し自治会にも加入しているが、地域住民の一員としての取り組みが求められる。更なる地域との付き合いを広めるために、自治会の役員、地域住民の理解を得て運営推進会議の充実、市の関係部署への働きかけ、リサイクル活動や清掃等への参加、施設行事へのお誘い、あるいは介護専門知識を活かした地域への情報発信、相談の受付等、積極的に取り組まれることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間としての尊厳を大切にし、家庭的な雰囲気を入居者の個性を生かし、介護しながら日常生活の支援を行うことを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には理念を伝え理解させている。また、日々のケアの中でも確認し合うようにしているほか、理念について考える勉強会を開催するなど、理解を深めるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民として自治会に加入し、地域行事には出来る限りの参加をするなどして、地元の人々との交流を深めるように努めている。	○	更なる地域との付き合いを広めるために、自治会の役員、地域住民の理解を得て運営推進会議の充実、市の関係部所への働きかけ、リサイクル活動や清掃等への参加、施設行事へのお誘い、あるいは介護専門知識を活かした地域への情報発信、相談の受付等、積極的に取り組まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価における要改善項目は一部(地域との連携)を除き改善されている。自己評価に当たってスタッフ会議の場で討議している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回実施としているが、メンバーが事業所の管理者、職員のみで構成され、地域の代表(自治会長・民生委員等)や市の職員、地域包括センターの職員などに参加を呼びかけておらず、運営推進会議の目的(地域と連携)に沿った取り組みとなっていない。	○	運営推進会議は地域密着型サービスを推進するため、利用者、家族等、地域住民、地域包括センターや行政の職員など、幅広い立場の人が参加する会議であり、運営推進会議の意義や役割等を十分理解して、積極的に参加を働きかけていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口への報告・連絡等は電話やFAXに頼ることが多く、市の担当者との協議等の場が持たれておらず、連携が十分とは言えない。	○	市町村は、介護保険者としては勿論、市民福祉を推進する地方自治の最前線の立場として、事業の推進においては大変重要な存在であることを認識し、市の担当窓口との密接な関係を築くには、行き来する機会を多く持つことや、相談員の受け入れ等幅広い連携策が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求時に利用者の状況報告(ホームでの暮らしぶり、健康状態、金銭管理報告など)を行っている。また、心身の状況について、何らかの変化や問題が起きたときなどには、随時きめ細かく報告がされていて、家族アンケートについても連絡の良さが記述されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、気楽に相談を受け付ける体制にある。苦情、意見等があった時には、ミーティングやスタッフ会議等の場で話し合い、対応措置と再発防止に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職に当たっては、1ヶ月前に届け出ることを原則としており、新規採用の職員があった時には、馴染みの職員がフォローするなど、職員間の和を通して利用者へのダメージを防ぐ配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にとって必要な内外の研修には、積極的に参加できるように努めている。参加者にレポートの提出と会議の席での報告をさせるなどして共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の同業種との交流を行っている。また、近くの同業者とも地域の行事やホームでのクリスマス会等の行事には、お互いに参加し交流を徐々に深めようと努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面談は、重要事項説明書等により利用者・家族と十分な話し合いの上で入居させている。入居後は、職員や他の利用者との人間関係を築きながら、家族との連絡を密にして、利用者が混乱しないよう安心感を持たせ、徐々に雰囲気に慣れるよう利用者本人を中心とした取り組みが行なわれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側といった垣根がなく、お互いが協働して日常生活を営む中で、教わり、教えたりして、喜びや楽しみを分かち合う関係づくりが築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしでの会話、更に開放感に浸れる入浴時や職員と二人で長時間係ることのできる個別外出時など、会話の中から個々の利用者の暮らし方への意向、希望の把握に努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時はアセスメントを基に本人や家族の要望を聞いて、個別に具体的な介護計画を作成し家族等から同意を得ている。その後は、各利用者の担当職員が課題とケアのあり方について意見を具申し、それを基に計画作成担当者が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議の中で生活記録やケース記録を基に、介護計画の現況適応度も話し合われ、通常は3ヶ月を目安に見直しを行っているが、重大な変化が生じた場合は、その都度、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望には出来る限り応じており、水族館に遊びに行ったり、希望の多い食堂で外食したり、外泊もでき、個々の満足を高めるよう柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、提携病院での定期健診受診や、週1回の訪問看護師による健康管理を行なっている。また、本人及び家族により、かかりつけ医の受診を希望する場合はその病院への通院介助も行ない適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を設け、入居時に利用者、家族等にホームとしての医療サービスの提供内容を説明し、同意書を得ている。	○	重度化やターミナルケアに向けた支援は医療機関との提携のみでなく、ホームとして対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針を職員全員で話し合い共有されることを期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや対応は、個々の尊厳を大事にして入浴時やトイレ誘導などの配慮を行っている。また、プライバシー保護の観点から、面会簿は一覧表にすることなく個票を使用したり、個人情報のファイルなどは事務所に保管するなどの措置をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者のペースを大切にし、強要したり急がせたりせず、安全上無理がない範囲で利用者の希望に沿うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のメニューは管理栄養士が作成しているが、利用者の希望に配慮して作られている。また、調理から片付けまで各利用者は得意な分野で協力しており、職員も同じテーブルで、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に1度を基本に、利用者の希望やタイミングに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各フロアで誕生日会を行ったり、外気浴も頻繁に行い、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。、職員の人員配置もスムーズにできるようになったことから野球観戦や買い物なども行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中に閉じこもることなく、散歩・ドライブ・買い物など、一人ひとりの体調に配慮しながら、利用者の希望に沿った支援を行なっている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除いて、玄関は施錠されず、天気の良い日は開放されている。職員の見守りも徹底しており、居室も常時施錠は行っていない。利用者にも外来者にも自由で開放的な対応を行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の指導のもと年2回実施している。地域防災訓練にも参加しているが、災害時に地域との協力関係を築くところまでには至っていない。	○	職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域の人々の協力を得られるよう運営推進会議や地域防災訓練の開催時に、参加者に協力をお願いして地域との協力関係の構築を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は提携病院の管理栄養士を通じて行なっている。水分や食事の摂取量に関しては、一人ひとり職員によって確認され、バイタル表に記録するなどして管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から廊下、居間に至るまで段差も無く、大きな窓は室内を明るくしている。居間には畳敷きの和室も用意され自由にくつろげる共用空間を創設しており、また、雛飾りや花々で季節感を採り入れて居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、調度品が持ち込まれた各部屋には、備え付けの戸棚があり、整頓整理が行き届いている。今までの生活習慣からベットに変えて畳が用意され、寝具が畳まれている部屋もあり、生活暦を優先して居心地よく過ごせる配慮がされている。		